



クリスマスだ
かんがえ
たぐさ、たぐさ、たぐさ、
かなしんでい
ひとのこ
それか、すこ
かんがえ
どうしーどうしーどうしー
かなしーこと
あるのか
クリスマスだ
かんがえ
かなしんでい
ひとのこ

K'mio talks

「表現する喜び」を齎すもの

いよいよ今年も終わりです。ショコラは演奏会やチャリティーコンサートなど盛りだくさんな一年だったと思うのですが、皆さん個人個人的にはどんな一年だったでしょうか。今年のショコラの大きな事と言えば、やはり「暗譜して演奏会をやった」という事が先ず上げられると思います。それは個人個人にとっても大きな収穫だったと思いますし、自信にもつながっていく事だと思います。私がいつも言っている様に、「暗譜したところがスタート」を合言葉に来年も頑張っていけたら、と思います。そうすることで、本当のもっともっと大きな「表現する喜び」が得られる結果を齎してくれるからです。そのためには毎回の練習で積み上げていく事が肝要です。いっぺんに覚えようとしても脳が受け付けてくれないでしょうし、余計大変です。ショコラはまだまだ伸びていく合唱団だと思います。団員一人一人が頑張っていて盛り上げていきましょう！！ (Noboru Kamio)

佐々木 団長の 断腸の思い

「音楽とはなにか」

この問いはおそらく太古から現代まで問われ続けています。様々な見解中「音楽は感情表現である」という意見には賛同される方が多いと思います。音楽には常に感情が伴っており、機械や自然が発する音はそれを音楽と呼ぶことは通常しません。では音楽は本当に感情表現ができるのでしょうか？この分野の科学研究は最近かなり進んでいるのだそうです。科学的に考えるときの注意として、聴き手が音楽に内在する感情を認知する場合（演奏に左右されない）と、演奏によって惹き起こされる聴き手の感情に着目する場合は区別されなければなりません。研究結果を列記できませんが実験を通じて、音楽に内在されるもの、演奏によるものいずれもが感情と密接な関係にあることは間違いないようです。曲そのものが感情表現を内在しており、歌詞抜きで機械的に演奏しても聴き手にある傾向の感情を惹き起こすことができます。さらに演奏者の力で感情表現を作り出すこともできることを示しています。これは私たち演奏者が楽譜に忠実に演奏しさえすれば曲の力だけでも感動を起こせるが（楽譜に忠実でなければいけません）、逆に曲に忠実でなくとも、または曲に内在する力が弱くとも演奏者の感情表現力で聴き手の感動を大きくすることができるということです。今回はもう少し感情表現について考えてみたいと思います。 (佐々木 晋)

編集後記 2012.12.20

童謡を歌っていて、その優しい歌詞とゆるやかなメロディに心が和む。時代を繋いで歌われてきたこれらの曲には皆さんそれぞれに思い出があることだろう。今や高齢になり認知症を患っている方が正確に歌詞を覚えていて歌われる、という話も聞く。歌が作られた背景なども理解して味わって歌いたいと思う。（三葉）
忘年会の季節。先日ある居酒屋でのこと。一緒に友だちが「かきと米茄子の揚げ出し」なるものを注文した。もし美味しそうなら私も、と密かに観察していたが一向に「かき」の姿が現れない。ついに彼女が叫んだ。「かき」が入ってないんですが…。新米らしい店員は「かき」は出汁に入っているとか果物の柿だとかその場限りの言い逃れをした。奥から板さんが出て来てこちらの主張を認め、作り直して持ってきた。牡蠣が四つも入っていた。かの店員が自分の発言の辻褄をどう合せるかと待ったが、我らのテーブルにはもう来なかった。(Kobo)



わたしの先生



誉め言葉が温かい 岩澤先生

金成 素子 (アルト)

私はこういう仕事をしていますが、先生らしい先生はあまり好きではありません。ですので、高校までの先生はあまり記憶に残ってはいません。先生に近づくのもできれば遠慮したいタイプでした。

唯一、今も忘れられないのは、大学時代の研究室の教授だった岩澤先生です。宮沢賢治の研究をされていて、賢治の世界を熱く語っていました。お酒と人間をこよなく愛し、夜な夜な大学近くの飲み屋に女子学生を引き連れて飲み歩いていた。（研究室には男子学生もいましたけれどね。）程よく酔いが回ると片っ端から近くにいる学生に「お前のここが素晴らしい！」と誉めていきます。その誉め言葉が岩澤先生でないとはいえない一言で、人間観察の鋭さと温かさを感じました。型破りな先生でしたが、皆に愛されていました。

教えている内容も大切ですが、人間的な魅力が人を導くのだと思います。



中一英語の マリア先生

石田 実 (バス)

米国勤務をしたり外資系企業に勤めたりと、早いもので英語との付き合いも 35 年。でも中学入学時は、話すのも聞くのも全くダメでした。これまで 20 人以上の英語の先生に教わりましたが、はじめてネイティブ先生の印象はとりわけ鮮烈でした。米国ネブラスカ州出身のマリア・オルブライト先生。全く英語のわからない中学 1 年相手に、英語だけで（日本語は一言も交えず）授業されました。男子校、しかもやんちゃな盛りですから、妙齢な先生は、何かと大変だったはずですが、常に毅然とされていました。冷蔵庫の発音 “re-fri-dge-ra-tor” を教えることだけに丸 1 時間かけたこともありました。（この英単語に出くわすたびに先生を思い出します。）熱心なキリスト教信者で、休みにはギターを持って全国の刑務所を慰問されていたそうです。外人恐怖症だった私は、授業以外に先生に話しかける勇気が当時ありませんでしたが、「もっとお話ししてみたかったなあ」と不思議と思い出す先生です。



季刊 雑感

童謡メドレー『いつの日か』中の「汽車のうた」は汽車の歌三曲をメドレー風に編曲したもの。今は山中今は浜の「汽車」は文部省唱歌。一九二一年（明治四十五年）に刊行された『尋常小学唱歌第三学年甲』が初出。作曲は大和田愛羅。作詞は乙骨三郎とする説が有力だが、大和田建樹とする説もあるため作詞者不詳と記すこともある。歌詞のモチーフは諸説あるが福島県の常盤線広野駅〜久ノ浜駅あたりという説が一般的。お山の中ゆく汽車はぽっぽの「汽車ぽっぽ」は一九二七年（昭和二年）の作品で作詞・作曲は本居長世。毎年夏、家族で静岡県沼津に避暑に行った時の御殿場線のようすとか。汽車、汽車、ポッポポッポの「汽車ポッポ」（作詞富原薫 作曲草川信）は一九三〇年（昭和十二年）に『兵隊さんの汽車』という題名で発表。歌詞も現在のものと一部異なり、蒸気機関車（汽車）に乗って出征する兵士を見送る内容であった。歌詞のモチーフはこちらも御殿場線とか。
余談だが、編集子は大人になるまで「近くに見えるまちののき」を木の名前だと思っていた。同世代の友人と話すところから誤解がいっぱい出てきてけっこ笑える。(Kobo)